

# 社団法人千葉青年会議所

## 2014 年度基本方針

第 55 代理事長予定者 稲葉 亮

### 基本理念

素晴らしき良さを継承していくために変えるべきものを変え、信じる道を突き進もう

### スローガン

# 不 易 流 行

### 基本方針

- 1 会員の拡大と組織強化
- 2 次代を担う青少年の育成
- 3 組織を見据えたひとづくり
- 4 地域との交流の推進
- 5 出向による経験からの組織強化と自己開発
- 6 未来へ羽ばたく 55 周年

# 所 信

## ■はじめに

未曾有の大震災より早くも 2 年が経過したにもかかわらず、被災地の復旧復興は未だ前途多難な状況も見受けられます。またグローバル化する世界経済の中で、不況から立ち直る国もある中、日本は長きにわたり停滞からの脱却を果たせないでいるのではないのでしょうか。復旧・復興から再生へとこの日本をシフトしていくためにも、我々青年経済人は改めて立ち上がるべき時が来たと感じます。これまで諸先輩が築き上げてきた千葉青年会議所の組織と歴史に感謝するとともに、今一度足元を見つめ直し青年会議所運動の原点に立ち返り人づくり、まちづくりを進めていくべきなのです。

青年会議所とはどうあるべきだ、との問いに一言で答える事が出来るのでしょうか。私はその答えは人それぞれであり、これという答えを決めつけるべきではないと思います。しいて言えばこれからの日本を背負うべき青年たちの集まりであり、学校や企業では得られない経験が出来る場、自ら気づき成長につなげる場、その素晴らしさを説明する言葉には枚挙にいとまがありません。

しかしながら先輩諸兄の作り上げてきた青年会議所の魅力や素晴らしさをこれからの仲間へ伝え継承していくには、その中身や伝え方を新しい時代に合ったものに変えていかなくてはならないと考えます。頭ごなしに命令するのではなく、少なくともこの人に言われたらという信頼関係の中で納得できる組織作りを大事にしたい、個人個人が能動的に参加をしてもらえる団体にしたいと考えます。

## ■会員の拡大と組織強化

40 歳で卒業を迎えねばならない我々青年会議所は毎年卒業生を送り出しています。ゆえに会員拡大は最重要課題であり、各地の青年会議所でも頭を悩ます問題でもあると言えます。しかし 97 万人都市である千葉市にはまだまだ若い人材がいます。この人材に出会い賛同者を募るためには今まで通りの戦略と新しい戦略を融合させ、この時代に合った会員拡大戦略を作り上げ成功させることこそが、メンバーのモチベーションアップに繋がり、ひいては組織強化になると確信いたします。

## ■次代を担う青少年の育成

次代を担う子供たちの健全育成はまさに国家百年の計とも言える重要な課題であると考えます。過去、青年会議所として多くの青少年事業が行われてきましたがその時代のニーズに合わせた設えをしてきたと感じます。では、これからの青少年健全育成の方向とはどこを

向くべきでしょうか。私はこれからの時代に本当に必要な設えが必要なのではと感じます。ではこの時代に必要なこととはどのようなものなのでしょうか。現在核家族化が進む中、我々の子供時代と比べると外で遊ぶ子供は減り、外にいてもみんなでゲームをしている光景を目にします。学校ではクラス内でのカースト制度、SNS を使ったいじめ、それに並行した不登校など、人を思いやる心が欠落した子供たちが増え、周りに合わせていじめに加担してしまう子供も少なくないと感じます。このような問題を解決させるためには心の未成熟な子供たちに人を思いやる大切さを学ばせるとともに、親世代の方々にも現代の問題をしっかりと理解していただき行動に移していく強さを学んでいただく場を提供し実行していただくことで、時代を担う子供たちの健全な育成。ひいてはこの国の輝かしい未来が構築出来ると考えます。

## ■組織を見据えたひとつづくり

我々青年会議所のメンバー一人ひとは青年経済人として地域社会の為に日々活動していると自負しております。しかしながら時代の流れか組織力としてのマンパワーが少しずつ弱まってきている気がいたします。個人の能力は高くても、それをうまく使えない、組織の中でうまく発揮できないと言った状況を感じる今、改めて団体の中での個、組織としての個の資質を高める必要があると考えます。懐古主義ではありませんが、古き良き時代の固い結束力と新しい時代の能力分担を見据えながら能力開発をするべきです。

## ■地域との交流の推進

青年会議所では毎年その時代に即した事業や例会が開催されていますが、他の団体でも多種多様な事業が行われています。このように色々な団体が存在する中でも、我々はJCとしてプライドを持って、今後も明るい豊かなまちの創造の為、運動を発信していかなければなりません。その為にもこの町に存在する各種団体や地域市民、行政、関係諸団体とも交流を持ち情報交換や意見交換などの場を多く設けることで、メンバー自身の視野や青年会議所本体の視野も広がり今後の運動に大きく影響を与えていくとともに青年会議所の運動を広く発信することで、地域にとって有意義かつ実効性のある運動を展開できる組織へと進化します。

## ■出向による経験からの組織強化と自己開発

青年会議所メンバーが学べる場はLOMだけではなく、JCI、公益社団法人日本青年会議所、関東地区協議会、千葉ブロック協議会もあります。このような素晴らしい出向先に前向きに出向することにより、メンバー一人ひとりのスキルアップに繋がりそのスキルがLOMメンバーの成長や気づきに繋がることこそが千葉青年会議所自体の組織強化に繋がります。

## ■未来へ羽ばたく55周年

1960年に創立した千葉青年会議所も2014年度で創立55周年という年を迎えます。創立以来脈々と受け継がれてきたこの組織を今後もさらに発展させるために、本年度は一つの節目であると感じます。50周年では次なる50年に向け更なる発展を遂げ、地域社会に必要とされる団体としてあり続けるために私たちが何をすべきなのかを徹底的に検証し討論して、進化した青年会議所運動を発信するために50周年ビジョンが作られました。55周年ではこの50周年ビジョンをどのように実行してきたかをしっかりと検証するとともに55周年以降何を改善しなければならないのかを考え実行していきます。まちの為、地域の為に汗を流してきた諸先輩方に敬意を払い、守るべきを守り传承すべきを传承しながら、これからの時代の変化に対応するべく変えるべきを変えていこうと考えます。

## ■結びに

皆さんはこの青年会議所に何を求めて入会されたのでしょうか。その答えは人それぞれだと思いますが、私はこの団体は「意識変革団体」だと思っています。青年会議所は様々な経歴・多様な業種の青年経済人が集まった団体です。だからこそ考え方も違えば価値観もそれぞれ異にしているのは当たり前です。そのような人の集まりが一つの大きな目標を掲げ、考え、議論し、行動して結果にたどり着きます。意見の違いがあればぶつかることもあり、互いの考えが理解できずに対立する事もあります。しかし一生懸命悩み、考え抜き、行動してかいた汗は嘘をつかないのではないのでしょうか。その人の後ろ姿を見た人は共感し、やがて損得なしにその人に助言をし、手を貸し、共に行動し共に汗をかくのでしょうか。そして人の為に汗をかくことの素晴らしさを知った時に青年会議所の素晴らしさを改めて実感するのです。私は、それこそが継承していくべき事だと確信いたします。

20代・30代は仕事盛んな世代です。この世代が時間を割くのは大変難しいことだと思います。その大事な時間を使い一生懸命真剣に携わるからこそ、大きく自分を成長させる気づきや経験を得る事が出来るのではないのでしょうか。日々を普通に過ごし、毎日の仕事をこなしていく生活をする事も間違った選択ではありません。しかし20歳から40歳までと限られた時間の中で、我々の可能性は無限にあるのではないのでしょうか。一生を通して付き合える本当の仲間を、自分の人生で最高に輝ける体験を、本気で行動した時にしか得られない感動を、この千葉青年会議所で見つけていただきたいと思います。